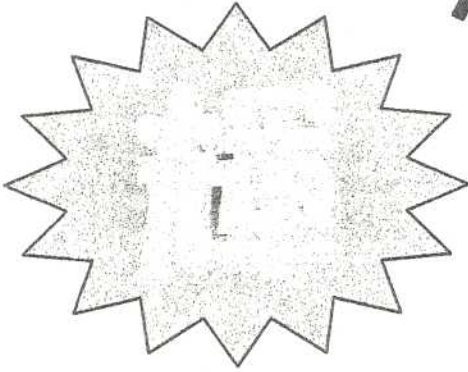


かがやき



第24号

発行 平成25年12月15日

茨城県立図書館

ボランティア協議会広報委員会

文責 上原 富男

— 目 次 —

- 1 ごあいさつ
- 2 よろしくお祈いします
- 3 大型絵本貸し出しバッグの作成
- 4 近美展覧会での朗読の感想
- 5 ボランティア協議会から

1 ごあいさつ

館長 佐川 美代子

この4月に茨城県近代美術館から、3度目の図書館勤務に戻ってまいりました佐川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

日頃よりボランティアの皆様には、本図書館での熱意あふれる活動に携わっていただいておりますことに、感謝いたしますとともにこころからお礼を申し上げます。

現在の図書館が開館して今年で13年目を迎えました。「明るく便利な開かれた図書館」というスローガンのもと、職員が一丸となって日々図書館業務に励んでおります。開館とともに発足したボランティアの皆様との二人三脚により、これまで歩んでこられたものと改めて感謝しております。

図書館の充実のためには、施設の整備、利用サービスの向上はもちろんですが、その中でも一番大切な図書資料の最善な状態での貸出し、配架整理そして読み

聞かせや対面朗読などボランティアの方々には多岐にわたりご尽力いただいているところでございます。

ご存知のように図書館は、本、知識・情報と人を結びつけるために活動しているところです。地域の知識創造の場として、情報社会や生涯学習社会にも対応できるよう、いつでも図書館を利用できる環境づくりを心がけ、より一層の充実を図っていくことが責務であると考えております。

今後とも、図書館のスタッフとボランティアの皆様が力を合わせて、図書館サービスの向上に邁進してまいりたいと考えておりますので、引き続きご協力賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



2 よろしくお願ひします 普及課長 岩上 義宏



昨年4月に3年間離れていた県立図書館に主任社会教育主事として普及課に戻り、読書活動の推進や

市町村支援、普及啓発事業を行なっています。学校現場でも、読み聞かせや図書館環境の整備などによって、本好きな子どもたちを増やそうと努力してきました。しかし、担任をしている教師が司書教諭を兼ねることが多いために、学校図書館にいつも人がいるとは限らないことや環境を整える時間が取れないこと、新刊書が少ないことなどの課題がたくさんあることを痛感してきました。

昨年度より県立図書館の新規事業として学校図書館支援事業がスタートしました。県教育庁生涯学習課と連携して

学校図書館にどんな支援ができるだろうか、学校はどんな支援を望んでいるのだろうかと考えながら取り組んできました。そんな中で、ボランティアの役割の大切さがあげられました。学校図書館にボランティアを置くことで、児童が利用できる時間が多くなり、ボランティアと司書教諭が連携することで環境も整備しやすくなります。本の受入や貸出し、読み聞かせなど、ボランティアに協力いただける内容が多くあることも確認できました。

県立図書館は、「明るく便利な、開かれた図書館」づくりのために力を尽くしていきます。今後も、ボランティアの皆様のお力をお借りすることが多くあると思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

3 大型絵本貸し出しバッグの作成

私達児童サービスボランティアは、以前から大型絵本の貸し出し、特に本の移動方法（現在の持ち運び方）に疑問を感じていました。

大型絵本は重く大きいので、かかえての移動は、何かに入れていかないと、本のいたみなどが懸念されます。

そこで、何年か前から、大型絵本を入れる本のケースバックのような物が必要ではと思っておりました。そんな時、願ってもない話が舞い込んできました。会員の知り合いの方から、いらなくなったカーテン布地がたくさんあるので、いただけるというのです。

ボランティア仲間にもそのお話をしたところ、大型バッグを作ろうという話に盛り上がっていきました。ボランティアの仲間の中には、ミシンの無い方もいた



り、又親御さんが協力して縫って下さったり、布地を裁断して下さる方、アイロン掛をして下さる方などと自分たちが出来ることを協力しあいました。

皆さん忙しいなか、コツコツと作業を進めて下さった結果、現在30枚近く集まってきたところです。

私達児童サービスボランティアの、少しでも本を傷めないように、大事にして欲しいという心で始まった活動です。

こうしてようやくできあがった、「大型絵本を入れる大型バッグ」。県立図書館でおおいに活躍をして欲しいと願っております。

〔児童サービス 細谷 千賀子〕

①? ワタシの話聞いて!

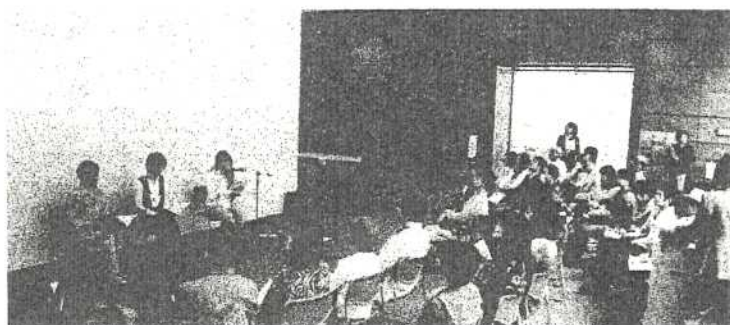
4 近美展覧会での朗読の感想

アンドリュー・ワイ・エス展覧会にて「今度、ロバート・フロストの詩の朗読をするの」と話すと、「ああ、そうなの」と米国在住の知人は、ごく当たり前のよう
に反応した。「アンドリュー・ワイ・エスの展示が茨城県の美術館であります」とフェイスブックに投稿すると、「女性を描いた作品を思い出しました」旨のコメントをいただいた。

どちらもよく知られた詩人・画家であるらしいのに、私が二人を知ったのは、今回の茨城県近代美術館で開催される展覧会が初めてのことでした。展示される作品の画家が影響を受け、親交もあったという詩人の詩を、画家の絵画や生い立ちと共に紹介し、画家と作風について来館者により深く理解してもらおうという美術館の企画で、その詩の朗読の依頼をいただきました。展示される絵画は震災復興支援ということで、埼玉県朝霞市の美術館「丸沼芸術の森」が特に貸し出してくださった貴重なものであるとのことでした。

何分、知らない詩人であり、詩の朗読はこれまで経験がなく、しかも、原語でということでしたので、かなり躊躇しましたが、日頃お世話になっている県立図書館や録音図書製作のグループに恩返しができるばという思いと、復興のお役にたてるならばという気持ちでお引き受けしました。

朗読は展覧会開催期間中の2日間のみで、当該日に先んじて作品を拝見させていただきました。緻密で美しく、派手



ではありませんが味わいのある作品群でした。これらの作品が優れているので朗読についての不安も高まりました。これはもう、一所懸命練習するしかありません。

とはいえ、哲学詩人といわれる彼の詩の内容は、淡々としていて、というか、し過ぎて、云わんとしていることが最初にはよく分かりませんでした。発音をチェックしたり、意味上の切れ目を考えたりするために何度も繰り返し読む過程で、ようやく詩の意味が自分に入ってきました。また、英語の詩は、行末が韻を踏むことがよく知られていますが、その他の音のリズムがあることも感じられてきました。

当日、録音班の先輩である立川さん、滝田さんが邦訳の詩の朗読で同席されていた他、諸先輩方も来場され、心強く思いました。途中離席もほぼ無く、朗読後、話し掛けてくださる方もあり、何かしらは伝わったかと安堵しました。

県近代美術館からは、展示に関するこ
との他に、音訳についてもご説明ただ
けて、ご参加の方々に関心をもって
いただけたのは何よりとのお話を
いただきました。

[録音図書製作ボランティア]

②? ワタシ まだまだ頑張れますヨ!

5 ボランティア協議会から

今年度の協議会々長は、高根沢洋子さん(対面朗読ボランティア委員長)が引続き務めておられます。水戸西ロータリクラブから協議会への支援金として10万円をいただきました。この浄財を有効に活用させていただくため、活動補助金配分の協議を行い下記のように決定し、分配されました。

活動分野	主な内容	金額
対面朗読ボランティア	対面朗読サービス研修会	23,000
録音図書製作ボランティア	音訳ボランティアネットワーク総会他	18,080
	朗読研修会	13,400
児童サービスボランティア	朗読劇鑑賞会・研修会	30,000
外国語資料整理ボランティア	研修会	1,460
図書修理ボランティア	図書修理用特殊材料購入費	10,000
	研修会	5,000
	合計金額	100,940

ボランティア見学会について

日時：平成26年2月6日(木) 8:30(三の丸書庫 集合)

場所：千葉県市川市立中央図書館および現代産業科学館

[広報 上原 富男]

③ 「ワタシ」 図書館でボランティアのみなさまの、お力になれると想うの!

- 1 ワタシの出生：製造メーカーのホーユー社で『ビゲン』の付属用品として販売されました。染料のビゲン購入の客様は「ブラシであるワタシ」はあまり意識をされていないのが現実です。
- 2 ワタシの現役時代：ブラシである「ワタシ」がお客様に意識されているのは染料のビゲンがある時だけです。みなさんに大変喜んで貰っていました。
- 3 ワタシの晩年：「ワタシ」は染料のビゲンが無くなれば、ご苦労さまでゴミ扱いとなります。

「ワタシ」も図書館のボランティアでは大活躍と聞きました。ガンバルゾ!

図書修理に使う、糊用の刷毛が無くなり困っています。製造メーカーに問い合わせたところ、「ブラシは染料の個体と併せて製造しているためブラシだけを購入することはできない」との回答でした。

美容用品問屋にも、ビゲンのブラシは置いてありません。他のブラシでは代替になるものが見つからないのが現状です。是非、一般のご家庭で眠っているブラシがありましたら、図書修理ボランティアに寄付して頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

[図書修理 ボランティア]

— ◇ — ◇ — 編集後記 — ◇ — ◇ —

富士山が世界文化遺産、和食が無形文化遺産に登録されました。

昔から日本人の心のよりどころとして文字や絵で残されている事柄が、世界にみとめられたのは嬉しい事です。

県立図書館のボランティア活動も今年で11年目を迎えました。特技を生かしたボランティア活動グループの手により、県立図書館のHPに「輝」バックナンバーが掲載されています。いままでの各分野の活動やボランティア全体の活動を読むことができます。

色々なことがあります、活動も続けることで楽しみも広がってくることでしょう。

来年も宜しくお願いします。来年の干支にあやかり「ウマ」のような飛躍を!

[広報ボランティア一同]